

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

羽ばたき

令和元年
第22号

民主主義の挑戦!! 輝き合う社会を求めて

編集：大分県議会自由民主党

発行：大分県議会自由民主党

土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地

TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124

土居昌弘公式ホームページ
http://doi-masahiro.net/

二日市副知事、ありがとうございました

令和元年度 竹田土木事務所 事業別予算(一部)

(単位:万円)

●国道442号(久住拡幅Ⅱ(県境))道路改良事業	19,800
●県道白丹竹田線(下志土知工区)道路改良事業	16,000
(飛田川工区)道路改良事業	13,207
●県道神原玉来線(中尾工区)道路改良事業	3,000
●県道庄内久住線(塩手工区)道路改良事業	13,512
(久住工区)道路改良事業	28,000
(仏原工区)交通安全事業	11,800
●県道竹田直入線外(会々外)災害防除事業	22,410
●濁淵川(会々)総合流域防災事業	3,000
●芹川(長湯)総合流域防災事業(かわまちづくり事業)	2,000
●玉来川(玉来)総合流域防災事業(かわまちづくり事業)	2,000
●下矢倉川(君ヶ園)火山砂防事業	5,500
★瀬の口地区(次倉)地すべり対策事業	5,000
★上下木地区(会々)急傾斜地崩壊対策事業	2,800
★次倉中央地区(次倉)急傾斜地崩壊対策事業	3,000
★渡瀬地区(渡瀬)急傾斜地崩壊対策事業	2,500
★殿町地区(竹田)急傾斜地崩壊対策事業	3,500
★濁淵地区(挾田)急傾斜地崩壊対策事業	3,000
★田原地区(飛田川)急傾斜地崩壊対策事業	1,000
★尾園地区(平田)急傾斜地崩壊対策事業	1,500

※その他の事業進捗状況や新規事業などにつきましては、土居昌弘までお問い合わせください。

春の大分県議会議員選挙で4期目の竹田市選出県議会議員となり、改めて身の引き締まる思いです。竹田市民が抱える課題を解決するため、市と国と力を合わせ、心も合わせて政策・施策を実施していくためにも、県の動向が重要であります。竹田市が持つ全ての力を発揮できるように、さらに大分県の力を傾注していかねばなりません。竹田市民の

皆様から寄せられましたご意見やご要望を常に心に留め、その課題の解決に向け、精進を重ねていく所存ですので、何卒宜しくお願ひします。
さて、7月5日(金)から7月31日まで開会されました、令和になって初めての県議会。補正予算額は647億63百万円で、既決予算を含めた額は6,463億42百万円となり、6

誇りある大分県の
未来を切り拓く

年連続のプラス予算です。選挙前に知事から提案され、議会が採択した骨格予算も積極予算でありましたが、さらに思い切った令和元年度補正予算。県議会としましては、その執行状況をしっかりチェックするとともに、県民の暮らしの向上にいかにつなげていくつもりです。

広瀬知事は補正予算案の提案理由の説明で、自らの県政執行姿勢を「県民の心を心として」と思いを込めて語りました。その思いは、私も同じです。「竹田市民の心を我が心として」引き続き活動をしていきますので、今後ともご指導ご鞭撻を宜しくお願ひします。頑張ります!



玉来ダム建設工事は、順調に進んでいます。今年の秋には難工事の放流設備工事が始まります。無事に施工できますように。

第99代県議会副議長に就任



おかげさまで4期目の大分県議会議員となり、県議会内での副議長選挙に勝って、副議長に選出されました。副議長の仕事は、議長を補佐しながら議会運営をすることとあります。しかし、大分県議会の副議長の役割で、比重の重たいものは広報活動と政策提言なのです。

県政や県議会の仕事は広域行政と呼ばれ、市町村という基礎自治体と国との間に挟まれた中二階のようなもので、暮らしの現場



障害者による大分県ゆうあいスポーツ大会（6月8日）。副議長としてエールを送り、心から激励しました。



大分県東九州新幹線整備促進期成会総会（6月24日）では熱心な議論が展開され、皆さんが切に望んでいると感じました。



完成したクアパーク長湯。6月2日のグランドオープンには、「57年の茂」が駆けつけてくれました。石破茂氏と坂茂氏。お二人のお力添えに感謝します。

である基礎自治体や、基礎自治体の運営を方向付ける国の間にあつて、住民にとって実に見えにくいものとなっています。

さらに、選挙で自らの代表を選んで政治をさせるという代表制では、選挙の時にしか正式に政治に参画できないとも言われています。

そこで大分県議会では、県政と県議会の模様を広報し、情報を共有することで政治参画する動機を促していく役目を副議長に持たせているのです。

また、議会の機能の一つとして、執行部への提言や議員提案条例の制定があります。大分県議会副議長は県議会議員でつくる政策検討委員会の会長として、その機能を主体的に発揮することができます。

この度、会長に就任して、県政を後押しする条例を制定したいと考えています。大分県では現在、「健康寿命日本一」を目指して施策を実施しています。しかし、人生の豊かさを考えてみると、健康で長生きが幸せだとは限りません。「長生きしても、なに

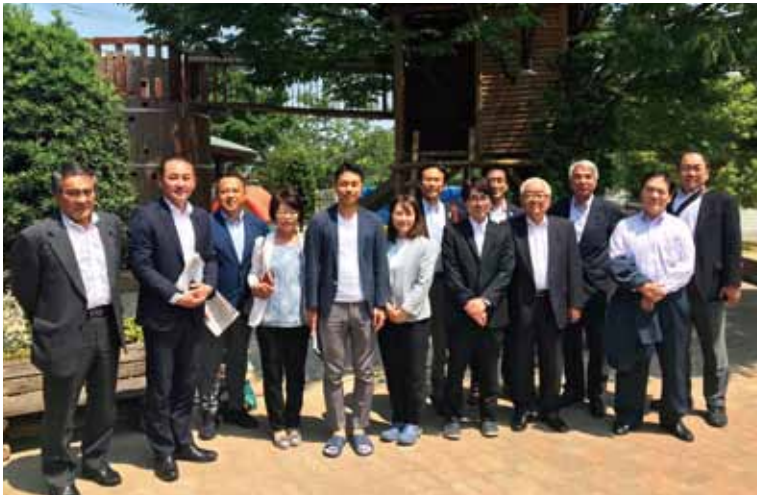
もいいことがない」という人さえいます。

このような状況を省みて、すべての大分県民が、自らのいのちについて考えてみる必要があるのではないかと考えています。いのちの最期を考えることは、いかに生きるかに繋がっているのではないのでしょうか。このことを条例として議員提案したいのです。

これら2つの役目を全うするために、全力を挙げて邁進していきます。

解決のため、問題をより深く

委員会調査



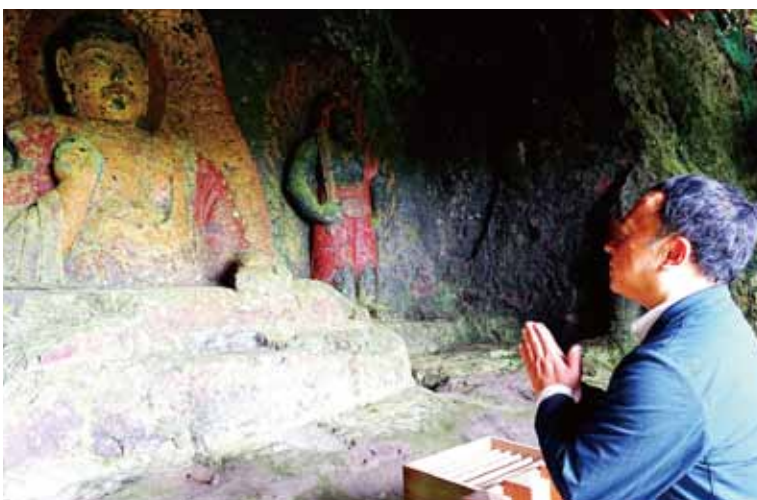
子供もスタッフも元気な泉光こども園。
笑顔の秘密がありました。



姫島ジオパークの教育材料「拍子水」。
みんなで「炭酸泉」を学びます。



笑顔輝く刃連町ひまわり会で、私も一緒に運動。
笑顔も移りました。



緒方のジオサイト 宮迫石仏。
地質の勉強が、思わず合掌。

令和元年度の県議会常任委員会は福祉保健生活環境委員会に所属することになり、福祉保健や生活環境に関わる県政について、さらに深く審査していくことになりました。

6月3日から27日まで、県内所管事務調査をし、県内の至る所に出かけて行っては現地施設の運営状況や、県の施策が有効に働いているかなどを調べることに。

宇佐市の泉光こども園ではICTを活用して、保育士の負担軽減を図っています。日田市の刃連町ひまわり会の皆さんは、運動やレクリエーションなどを大いに楽しみ素敵な笑顔。姫島では村民が「火山が生み出した神秘的の島」に誇りを持ち、存在する貴重な地質遺産を保全しながら、学習活動やツーリズムに

活かしています。「子供の一番かわいい時に、関係を持って幸せ」「救えるかはわかりませんが、大事ないのちに寄り添っています」などと語るのは、佐伯市の里親の皆さん。豊後大野市にある防災航空隊は、南海トラフ地震に備えて体制を強化しています。

もちろん、地元の竹田市も調査します。久住町石田地区の小規模給水施設を調査確認。こちらでは、県の小規模給水施設普及支援事業を使い、集落の給水施設をリニューアルしました。

今年度もこの事業には、竹田市から3つの集落が手を挙げています。地域の課題解決のために、しっかりと支援していかねばなりません。

これから一年間、福祉保健生活環境委員会の一員として精進しますので、宜しくお願ひします。

利益を上げることはできないが、どうしても必要な医療もあります。これからは精神科救急医療も、しっかり支援します。



優れた自治体の条件——畜産を例えに

地域を牽引する畜産

竹田市の元気な産業である畜産業。竹田市では、和牛の繁殖と肥育に、酪農、養豚、養鶏といった業が営まれています。特に、和牛の繁殖は盛んで、全国和牛能力共進会で日本一に輝いたのは記憶に新しいところです。

しかしながら、それぞれの業態を見てみますと、それぞれで乗り越えなければならぬ課題を持っています。



久住の工藤修平さんの就農も、これからです。大分県は、単独事業を使ってでも応援します。頑張ってください！



仙台で、日本一を獲得した翌朝。次の戦いは、もう始まっています。

和牛繁殖の課題

例えば、和牛の繁殖農家の数は、年々減少。高齢化等による廃業で、農家数は県全体で10年間に43・2%も減少し、その速度も急なものとなっています。そして、このことは当然のことながら、市場に出荷する子牛の減少をも意味しています。現在の肉用牛農家の県の平均年齢は66歳。5年後には70歳を超えます。もちろん、課題はこれだけではありません。過重な労働負荷、飼料費の高騰、伝染病等、様々な課題を抱えているのが現状です。

この厳しい状況は繁殖農家に限ったものではなく、それぞれの業態にもあるのです。

課題解決力の源は

大分県は平成31年3月に「大分県肉用牛振興計画」をおおいた和牛日本一プロジェクト」を策定しました。そこには重点的に取り組む3つの柱として、「生産基盤の強化」「品質・収益性の向上」「高付加価値化」を掲げ、和牛の増頭、全国上位の成績獲得、全国的な認知度向上を目指して、一つひとつの課題解決を図っていくとしています。



菅生に大地農場さんが、母豚1800頭の繁殖施設を建設。環境に配慮した最先端の環境型施設です。



大分県農林水産部長を訪問。生産者、流通業者、行政が一緒になり、これからの畜産振興策を練って、実行していくと確認しました。

酪農も現在の大分県酪農振興計画の見直しを進め、新たな計画を策定する予定です。それぞれの分野で、それぞれの計画をつくり、それに沿って振興策を実施していきます。問題は、それぞれの計画の質と、その実行力です。

現場主義を掲げる政策県庁、大分県庁。その要となるのは、現場と県庁との一体感です。県庁が現場と力を合わせ、心も合わせることで、計画の質と実行力は確かなものとなります。つまり、議会が注視するのは、両者の距離が縮まり、一体感が醸成できるかどうかです。しっかりとチェックしていきます。